2011 年度「海洋問題演習」Ⅰ～Ⅳ履修学生および
事例研究（海洋問題演習Ⅴb）履修予定の学生の皆様

冬学期は、3 つのテーマ「場の利用」「資源の利用」「安全な利用」に分かれ、グループ討論して頂きます。下記の課題の概要をよく読み、希望順位（前・後半ごとに第 1、2、3 希望）を付け、9 月 21 日（水）15：00 までに education@oa.u-tokyo.ac.jp まで Email 添付でお送りください。

氏名（　　）学籍番号（　　）
所属研究科・専攻（　　）

前半（10/3～11/14）：［　］内に数字 1～3 を入れること。

[　] 場の利用	**沿岸部における震災復興計画の比較評価** 震災復興に向けた構想や計画（案）が国、県、市町村等から発表されているが、その方針には違いが見られるほか、賛否両論さまざまな評価が行われている。本課題では、複数の構想や計画（案）について、情報収集を行い、類型化、比較評価などを行うことで、これからの復興計画の策定プロセスに対し、建設的な政策提言案を作成する。
[　] 資源の利用	**被災地の水産業復興をめぐる課題と対策** 東日本大震災では、地震と津波の影響により東北地方の水産業が甚大な被害を受けた。震災の被害は漁港や漁船にとどまるものではなく、魚市場や製氷、冷蔵施設などにも及んでおり、地域の水産業の再建のためには多くの問題がある。再建を実現するための制度的な枠組みについては、漁業権の問題などすでに様々な提案・議論がなされている。こうしたなかで、被災した地域が水産資源を利用するにあたり、現状としてどのような課題があり、どのような対策がありうるのかについて、沿岸養殖・沿岸漁業と遠洋漁業に分けて調査し、今後とるべき方策について議論を行う。
[　] 安全な利用	**地震・津波防災と沿岸の安全な利用** 沿岸域は工業、物流、漁業、生活、レクリエーションの場として極めて重要であり、古くから多様な利用がなされてきた。しかし今日では、東日本大震災に伴う津波による甚大な被害の発生を受けて、沿岸域の安全な利用について再考する必要に迫られている。そこで過去に発生したものも含む津波被害の実態と教訓を軸に調査を行い、それを元に今後の沿岸域の安全な利用法、それを可能にする政策等の提案を目指してディスカッションを行う。

後半（11/21～12/19）：［　］内に数字 1～3 を入れること。

[　] 場の利用	**国内外の沿岸域の問題と対策** 海洋において沿岸浅海域は最も生物生産が高く、かつ珊瑚礁や干潟、藻場に代表される様に極めて生物多様性の高い海域である。さらに、水産業を始めとする産業やレクリレーションなど文化的側面においても人間活動と密接に関わっている。本セッションでは、沿岸域における人間活動に起因する環境問題の実態と環境改善のための政策や制度の概要を理解し、その上で、東京湾・有明海・瀬戸内海など、海域ごとに異なる物質循環に関わる現在の問題と政策を含む対策について、いくつかの事例を選んで調査し、有効な対策を考える。
[　] 資源の利用	**海洋資源開発をめぐる課題** 昨今、熱水鉱床、ガスハイドレートや遺伝子資源といった新しい海底資源の存在が脚光を浴び、日本政府が推進する海洋基本計画にも組み込まれている。より直近では、レアアース資源泥の話題が新聞を賑わせた。こうした新たな海底資源開発はどのように捉えるべきか。その利点および課題を、既存の海底資源との関係、日本のエネルギー政策全体における位置づけ、環境問題や南北問題へのインプリケーション、国際社会への日本の貢献といった大きな枠組みを踏まえて評価する必要がある。この評価および政策方向性の探究においては、科学技術の役割、法的な課題の掘り起し、政治的・社会的文脈への目配りが要求される。
[　] 安全な利用	**生物移入と生物多様性** 人間の活動は海洋の環境に直接的、また間接的に大きな影響を及ぼしている。特に微生物による生産に支えられている海洋の生態系は過剰な栄養塩の流入、外来種の移入などによって影響を受けており、その結果近年では様々な問題が発生している。そこで人間活動と未知の部分も多い海洋生態系の関わりを中心に、その影響の多様さや対策の困難さ、利害調整の重要性などについて事例調査を行い、考えられる改善策や対応のための法制度等の提案を目指す。

※グループ発表は、第 1 回講義（10 月 3 日）に行います。希望が偏った場合、ご希望に添えないことがございますが、予めご了承ください。前半と後半で異なるテーマで討論して頂きます。